

第2回ワークショップ 結果概要 全体まとめ

1 木崎地域の課題の整理について

- 木崎地域の課題や課題解決の方向性について、前回のワークショップで話し合った内容が反映されていると思う。
- 将来的に解体する建物は、倒壊などが起こらないようにできるだけ早く解体できるとよい。
- 廃校後の体育館などの利用について、地域から要望を出しても、様々な条件が付くことで実現することが難しい。
- 近年、住民の地域への思いが希薄になっていると感じているが、地域を衰退させないために、若い世代が愛着を持って地域に関われるようになるとよい。

2 対策案について

1) 笹山小学校跡地

【 民間活用 】

- 民間企業でなければ笹山小学校跡の広い建物を維持するのは難しいと思うので、民間活力を導入できるとよい。
- 近年の社会状況を踏まえると、笹山小学校跡地への企業誘致は難しいのではないかと。この状況下で地域からの条件を付けると更に買い手がつかず、建物が使われなまま廃墟化してしまうのではないかと。
- 企業を誘致する場合には、地域が望む条件に合った企業が来るとは限らない。ビジネスが優先となり、施設を住民のために活用するという視点が抜け、住民にとってのメリットが少なくなってしまうのではないかと。事例を見てもスポーツや子育てなどの地域のための施設は、民間ではなく行政が運営しているケースが多い。
- 施設の利用方法は企業次第になるので、ワークショップの意見交換が無駄になるのではないかと。もし、どこか手を挙げている企業があるなら情報を共有してもらい、具体的な活用方法の話をした方がよいのではないかと。

【 地域による運営 】

- これだけの規模の施設を運営するには手間やコストがかかるので、地域による運営は難しいのではないかと。
- 民間に売却する以外に、指定管理制度や補助金制度を利用した運営はできないか。施設全体の運営は難しくても、地域で NPO 法人を立ち上げ、市からの補助を受けて体育館だけを運営し、避難所やスポーツ拠点としての機能を維持できないか。

【 避難所機能の維持 】

- プライバシーの確保や三密対策などを考えると、避難所には従来よりも広い面積が必要になるのではないかと。笹山公民館では十分な面積の確保が難しく、木崎小・中学校は笹山地域から距離があるので、旧笹山小学校をこれまで通り避難所として利用できるとうい。
- 市が旧笹山小学校を避難所として維持するのが難しいことは理解できるが、民間に売却しても、災害時などには避難所として開放ができるようにしてほしい。緊急時の一時的な避難所でも構わないので利用できるとうい。
- 誘致した企業と災害時には避難所として利用する合意が得られても、これまでの避難所運営とは異なる点が出てくるのではないかと。民間の建物となった場合、避難所の運営主体はどこになり、運営はどう変わるのかなどを明確にしてほしい。
- 旧笹山小学校が避難所から外され、木崎小学校は水害の影響を受ける可能性があることを考えると、まず地域全体の避難所の方針を定め、そのうえで旧笹山小学校の活用方法を検討する必要があるのではないかと。地域全体で避難所が足りないのではないかと。

【 導入施設案 】

(地域住民のための施設)

- 地域の人達が地域に根ざした活動に利用することで、地域の活性化に貢献するような施設を将来に残せるとよい。
- カフェや図書館、高齢者の運動や談話の場、ワークショップや作品展示のスペースなど、多目的な利用ができ、地域の人々が気軽に訪れられ、住民の生きがい創出につながる施設ができるとよい。

(人が集まる施設)

- 地域活性化のためには人が集まる機能やサービスが必要ではないか。例えば、市が農業特区であることを生かした農業工場などを誘致し、工場見学や学校の作りを生かした展示などを行えば人を呼ぶことができるのではないか。
- 東港に豪華客船が来航した際の屋台やショーの開催など、北区の情報を発信するアンテナショップを設けられるとよい。そのように活用できれば、歩道整備や除雪を行政が行ってくれることで地域の負担が減ったり、北区の魅力を広く知ってもらえるのではないか。
- 週末や客船が寄港している時の集客は一時的なものなので、恒常的に人が集まる場所になるように、自然環境も含めた北区の良さを伝える機能が導入できるとよい。

(スポーツの拠点となる施設)

- 体育館を改築したことや、利用者の利便性を考えると、体育館やグラウンドは広くてきれいなので、これまで通り野球やバレーなどのスポーツ拠点として使い続けられるとよい。そうなれば、災害時に体育館を避難所として利用できるのではないか。

(定住を促進する施設)

- 地域の活性化のためには、地域に子どもが増えることが不可欠であると思う。木崎地域には子どもたちが自由に遊べる場所がないので、「こども創造センター」のような施設や広い公園、子育て支援施設などができるとよい。大学が近いので、「ゆいぽーと」のような研修室や子どもが遊べる機能が複合している施設も考えられるのではないか。地域への来訪者が増えることで、木崎地域に住みたいと思う人も増えるのではないか。

- 木崎地域が住みやすい、子育てしやすい地域だと思ってもらえるような機能やサービスがあると定住につながると思う。そのためには、笹山小学校跡地に公園や子どもが遊べる場所があるだけでなく、様々な用事が済ませられる商業施設等が周辺に配置できることが望ましいのではないかな。

（ その他の施設 ）

- 笹山小学校跡地を広い空きスペースと捉えると、利用したい人が好きに使い方を考えられる貸しスペースとして活用できるのではないかな。
- 県や市役所の分館にしたり、市の関係機関に利用してもらおうのがよいのではないかな。
- 笹山小学校では北区特産の「しるきーも」とのコラボ商品を考えて販売していたので、そういう背景を踏まえた活用方法が考えられると、小学校だった時代の活動とのつながりができてよいのではないかな。

【 活用方策・検討の進め方 】

- 体育館と校舎は切り離して考え、管理運営や用途を別々に検討するということはできないかな。例えば体育館は市が維持して、平時はスポーツ施設、非常時は避難所として使用する。校舎は民間に売却するということも考えられる。ただ、こういう条件が付くと、校舎が古くなっていることもあり手を挙げる企業がないかもしれない。
- 活用案はいずれも中長期的な取り組みだと思うので、短期的な活用もできると、施設を放置したままにならずに、住民に活用の検討が進んでいることが伝わるのではないかな。校舎はリモートオフィスやシェアオフィスとして利用し、体育館はそのままスポーツ施設として他の体育館利用者に三密対策などで使ってもらえるとよい。
- ワークショップ以外でも地域の意見を聞き、地域の意向を汲んでくれる企業に利用してもらえるとよいので、売却を急がないでほしい。
- 旧笹山小学校は閉校以来、整備が行われていないため、景観が悪くなっている。このままでは購入者が見つかりにくくなるのではと懸念しているので、早めに方向性を決めてほしい。

2) 横井の丘ふるさと資料館

- 横井の丘ふるさと資料館の機能は北区郷土博物館に移転しており、建物も耐用年数を超えていて危険なので、解体するのはやむを得ないのではないかと。
- 地震などの災害はいつ発生するかわからないので、近接する保育園の子ども達や保護者の安全を確保するためにもできるだけ早く解体してほしい。
- 資料館の収蔵品は地域の貴重な資料なので、保管場所を市でしっかり確保してほしい。保管場所が確保されないと解体に着手できず、建物がそのまま放置されてしまうのではないかと心配である。
- 資料館に残っているはた織機や木舟などの展示品や資料は、笹山小学校に収蔵したり、市内の博物館に寄贈することができないか。
- 資料館を解体した場合、その後の跡地活用についても地域の意見を聞いた上で進めてもらいたい。

3 その他

- 民間活用の検討に必要な情報として、市街化調整区域にかかる制限がどのようなものかを明確にしてほしい。
- これまで笹山小学校のグラウンド整備や学校周辺の歩道の除雪を住民が行ってきているが、負担が大きいため減らせるとよい。
- 新しい木崎ひまわりクラブ周辺の道や駐車場が砂利で使いづらいので舗装してほしい。